



アレクサンダー・ガヴリリュク (ピアノ)

Alexander Gavrylyuk, Piano

「アレクサンダー・ガヴリリュクは、この10年間で最も偉大な発見の一つである。彼は毎回、驚くべき妙技と示唆に富み演奏で聴衆を魅了する」(2015年6月 De Telegraaf)

1984年生まれ。7歳よりピアノを始め、9歳で初めてオーケストラと協奏曲を演奏した。1999年第3回ホロヴィッツ記念国際ピアノコンクールにおける第1位とゴールドメダルを受賞。2000年11月には浜松国際ピアノコンクールで優勝し、日本の審査員に「20世紀後半最高の16歳」と評された。2005年、ルーベンシュタイン国際ピアノコンクールにて、第1位及び金賞、ベスト・コンチェルト賞を受賞した。

2010年、ロイヤル・コンセルトヘボウ管との初共演以降、マスター・ピアノ・シリーズにおけるリサイタルあるいは同オーケストラとの共演のため、毎年アムステルダムで公演を行う。今日ではノーブルで心に強く訴える解釈が評価され、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィル、モスクワ・フィル、ワルシャワ・フィル、イスラエル・フィル、ロッテルダム・フィルなどのオーケストラや、プロムシュテット、アシュケナージ、ラザレフ、パトレニコ、シモフ、スダーンなどの指揮者と共演している。

スリリングなラフマニノフ作品の演奏には定評がある。ラフマニノフのピアノ協奏曲全曲及び狂詩曲を、N.ヤルヴィ指揮/スイス・ロマン管(2013年5月)、トヴェイ指揮/ヴァンクーバー響のラフマニノフ音楽祭(2014年3月)にて演奏した。

日本及びアジアには定期的に訪れ、N響、ソウル・フィルなどとの共演、リサイタル・ツアーを行った。サントリーホール、東京オペラシティ公演はしばしば完売となっている。ロシアにも定期的に訪れ、スビヴァコフ指揮/ロシア・ナショナル管、スズトラーフ指揮/ロシア国立響と共演した。モスクワ音楽院大ホール及びクレムリンでのリサイタルを行っている。

13歳よりシドニーに拠点を移し、2006年まで滞在した。メルボルン響、シドニー響など主要なオーストラリアのオーケストラと共演し、毎年オーケストラ公演、リサイタルを行っている。2009年、アシュケナージ指揮/シドニー響とプロコフィエフのピアノ協奏曲を録音し、高い評価を受けた。これはシドニー・オペラハウスでライブ録音されたものである。その他録音には、ラフマニノフ、スクリャーピン、プロコフィエフを演奏したリサイタル盤(ピアノ・クラシックス)、最近のものではムソルグスキー「展覧会の絵」& シューマンの「子供の情景」の録音が広く評価されている。

2015/16シーズンの主な活動としては、ゲルギエフ・フェスティバルの一環としてゲルギエフ指揮/ロッテルダム・フィルとの共演のほか、スイス・ロマン管、シンシナティ響、N響、イェテボリ響、ハレ管との共演、リサイタルではトゥールーズ、フリップル、モスクワ、ミネアポリス、ニューヨーク、さらにジャンヌス・ヤンセンとのリサイタルではヨーロッパ中で演奏する。また、オーストラリアとニュージーランドで大規模なツアーを実施し、シドニーとメルボルンでのリサイタル、アレレイド響及びタスマニア響との共演などを行った。

チャリティ・活動にも尽力しており、オーストラリアの若手ピアニストを援助するTheme & Variationsによる若いピアニストのための基金、カンボジアの教育施設建設を援助するオポチュニティ・カンボジアなどを支援している。

スタインウェイ・アーティスト。 www.alexandergavrylyuk.com

想像を超える多様な表現力

アレクサンダー・カヴリリュク



絶品の録音集

～その音楽の魅力伝える並々ならぬ情～

超絶技巧作品の奥に響く、複雑な感情を浮き彫りにするピアニスト

プログラムス: バロニーニの主題による変奏曲

リスト: コンチェルト第3番

リスト: ヌクス・ワルツ第1番

ラヴェーン(伝説): イザル手の奥の扉

サン・サンス: リスト、ホロヴィッツ編: 死の舞踏

リスト: ヴェネツィアとナポリより [クララツァ]

最新発売品

品番: JPCL0086

2,000円 + 税



発売元

Piano Classics Ltd.

http://www.piano-classics.com



日本輸入総代理店

日本出版貿易株式会社

東京本社: 〒101-0064 東京都千代田区築船町1-2-1

●全国のピアノクラシック・レーベル取扱店にてお求めいただけます。



カヴリリュクが描き分ける2つの名曲

ムソルグスキー: 組曲「展覧会の絵」

シューマン: 子供の情景

品番: JPCL0063 2,000円 + 税



ロシア近代音楽の核心に迫る

ラフマニノフ: 楽興の時

スタリホーピツァ: ピアノ・ソナタ第5番

プロコフィエフ: ピアノ・ソナタ第7番、他

品番: JPCL0037 2,000円 + 税

いま 時代を翔るピアニズム

アリス=紗良・オット

ピアノ・リサイタル

出演者自身による
プライベート録音!
18:20~

2016年9月30日(金) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

フリーク: 叙情小品集より
フリーク: バラード Op.24
〜ルンヴェーニエによる変奏曲形式による

SV6,400(税別) AV5,400 BV4,300 C¥4,200

リスト: ソナタ 短調

レイフ・オヴェ・アンスネス

ピアノ・リサイタル

語り継がれる巨匠への道を、一途に向かう

11月25日(金) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

S¥9,100 A¥7,500 B¥5,900 C¥4,800 (税込)

シューベルト: 3つのピアノ曲(即興曲) Op.946
ドビュッシー: 版圖 I.塔 II.グラナダの夕べ III.雨の庭
ショパン: バラード 第2番 へ長調 Op.38
ノクターン 第4番 へ長調 Op.15-1
バラード 第4番 へ短調 Op.52

【その他の日本公演スケジュール】
11/19&20 NHKホール
(シシマン指揮 NHK交響楽団との共演)
11/22 電気文化会館
11/23 所沢文化センター・ミューズ
11/26 兵庫県立芸術文化センター

お問い合せ ジャパン・アーツぴあ (HPでは24時間受付中!)

JAPAN ARTS 03-5774-3040 www.japanarts.co.jp



アレクサンダー・ガヴリリュク

Alexander Gavrylyuk Piano Recital

ピアノ・リサイタル

2016年7月14日(木) 19:00開演
東京オペラシティ コンサートホール

7:00p.m. Thursday, July 14, 2016 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: ジャパン・アーツ 協力: 日本出版貿易

シューベルト *F. Schubert*

ピアノ・ソナタ 第13番 イ長調 D664

第1楽章 アレグロ・モデラート 1st mov. Allegro moderato
第2楽章 アンダンテ 2nd mov. Andante
第3楽章 アレグロ 3rd mov. Allegro

ショパン *F. Chopin*

幻想曲 へ短調 Op.49

Fantasy in F minor Op.49

夜想曲 第8番 変ニ長調 Op.27-2

Nocturne No.8 in D-flat major Op.27-2

ポロネーズ 第6番 変イ長調「英雄」Op.53

Polonaise No.6 in A-flat major “Heroic” Op.53



ムソルグスキー *M. Mussorgsky*

組曲「展覧会の絵」

Pictures at an Exhibition

プロムナード	Promenade
第1曲 こびと	1. Gnomus
プロムナード	Promenade
第2曲 古城	2. Old Castle
プロムナード	Promenade
第3曲 テュイルリーの庭	3. Tuileries
第4曲 ビドロ	4. Bydlo
プロムナード	Promenade
第5曲 殻をつけたひなどりの踊り	5. Ballet of the Chickens in their Shells
第6曲 サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ	6. Samuel Goldenberg and Schmuyle
プロムナード	Promenade
第7曲 リモージュの市場	7. The Market-Place at Limoges
第8曲 カタコンバ(ローマにある信者墓地) ～「死者の言葉をもって、死者と共に」	8. Catacombae(Sepulcrum romanum) ～Cum mortuis in lingua mortua
第9曲 鶏の足の上に建つ小屋(バーバ・ヤガー)	9. The Hut on Fowl's Legs(Baba-Yaga)
第10曲 キエフの大門	10. The Great Gate at Kiev

※当初発表の曲目より一部変更しております。何卒ご了承ください。

シューベルト：ピアノ・ソナタ 第13番 イ長調 D664

ウィーンで活躍したF.P.シューベルト(1797-1828)は、31年間の短い生涯のうちに、実に数多くの作品を残した。その多くを歌曲が占めているが、ピアノ曲にも、歌曲を思わせる旋律美があふれている。ピアノ・ソナタは、未完のものや断片も含めて21曲ほどあり、充実した規模を誇る力作が並ぶ。しかし、ベートーヴェンの32曲のピアノ・ソナタが生まれた直後という事情もあって、生前ほとんど注目されず、大半は遺作となった。今回演奏されるイ長調のソナタも、シューベルトの死後、1829年に出版された遺作であり、1819年または1825年の作と考えられている。長大な曲が帛立つ彼のピアノ・ソナタのなかにあって、コンパルトな3楽章構成でまとめられたこの作品は親しみやすく、明るい雰囲気が含まれている。

第1楽章:アレグロ・モデラート。イ長調、ソナタ形式。

第2楽章:アンダンテ。ニ長調、3部形式。

第3楽章:アレグロ。イ長調、ロンド・ソナタ形式。

ショパン：幻想曲 へ短調 Op.49

ポーランドのワルシャワ近郊ジュラゾヴァ・ヴェラに生まれ、パリで世を去ったF.ショパン(1810-49)の書き残した作品は、大半がピアノ曲だった。ピアノ・ソナタをはじめ、前奏曲、練習曲、夜想曲、ワルツ、バラード、スケルツォ、さらに、民俗舞曲に基づくマズルカやポロネーズなど、従来のジャンルないし様式について、表現の可能性を深く追求したピアノ曲の数々が残されている。そして、ショパンの稀有の創作力をもって生み出されたその作品は、ロマン派のピアノ音楽に新しい境地を開いた。

ショパンの数々の傑作のなかで、「幻想曲」と名づけられた作品は、今回演奏されるへ短調のOp.49だた1曲である。彼が恋人のゾルジュ・サンドと過ごした幸福な時期、1841年に作曲され、スーズン公爵夫人に献呈されている。曲は、行進曲風の序奏に始まったのち、幻想曲=ファンタジーの名のとおり、多様な楽想が、自由で幻想的な展開を見せてゆく。一方、全体はソナタ形式風の構成でまとめられており、見事な統一感を印象づける。そして最後は、変イ長調のコーダによって、華やかに締めくくられる。

ショパン：夜想曲 第8番 変ニ長調 Op.27-2

ピアノ曲としての夜想曲(ノクターン)の名称と様式は、アイルランド出身のJ.フィールド(1782-1837)が創始したと考えられており、それは、左手の分散和音による伴奏に乗せて右手が抒情的なメロディーを奏でゆく3部形式のピアノ小品である。ショパンは、フィールドによる構想と様式に基づいて、彼ならではの手法を盛りこんだ夜想曲を21曲ほど作曲した。ショパンらしい繊細優美でロマンティックなピアノズムにあふれたこれらの作品は、従来の夜想曲の表現性を大いに高めたが、そのカンタービレないし歌謡的な性格は、ロマン派のピアノ曲における特色の一つにもつながる。即ち、展開部を伴うソナタのような規模は求めず、旋律美が優先となるのである。

今回演奏される第8番は、1835年に作曲され、ダボネー伯爵夫人に献呈された。変ニ長調、レント・ソステヌート、ロンド風の形式で書かれている。夢みるような甘美な情緒を含み、また、コーダの美しさも印象に残る夜想曲である。

ショパン：ポロネーズ 第6番 変イ長調「英雄」Op.53

ショパンは、生涯の後半を主にフランスで過ごし、祖国ポーランドに帰ることなく世を去ったが、革命のさなかにあった故国のことを想い続けていた。ポロネーズやマズルカなど、ポーランドの舞曲に基づく作品には、彼の郷愁が秘められていると言えよう。

1842～43年に作曲され、オーギュスト・レオという人物に献呈されたポロネーズ第6番は、その曲想が、列をなして堂々と進軍する英雄たちの姿を想像させることから、のちに「英雄ポロネーズ」の名で親しまれるようになり、今日ではショパンの最もポピュラーなポロネーズである。曲は、スケールの大きな序奏に続いて、3部形式で展開し、ポーランドの舞曲ポロネーズ独特の、勇壮な3拍子のリズムに乗って、力強く進んでゆく。

ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」

音楽の分野でも国民性を強調する傾向が高まった19世紀後半、ロシアでは、西ヨーロッパの音楽にあまり影響されずに、純粋にロシア的な民族色を打ち出そうとした作曲家グループ「五人組」が活躍した。ロシア国民楽派の中心となった、この「五人組」(ロシア語では「マグーチャヤ・クーチカ」=「力強い仲間」)の一人が、M.P.ムソルグスキー(1839-81)であり、1874年に完成された「展覧会の絵」は、彼の代表作として名高い壮大な組曲である。力強さや素朴な叙情性などが印象深いこのピアノ曲については、のちにフランスの作曲家M.ラヴェルがオーケストラ用に編曲しており、このオーケストラ版でもよく演奏される。

組曲「展覧会の絵」は、ムソルグスキーの親友だった画家V.ハルトマン(1842-73)の死を悼み、その遺作展を見た感銘をもとに作曲されたという。そして、10の絵画を見て歩くという構成で書かれているが、冒頭や、いくつかの絵と絵の間には、「プロムナード(そぞろ歩き)」という曲が、形を変えながら現れて、案内役あるいは気分転換のような役割を果たしている。内訳は次のとおりである。

プロムナード／ 1.こびと(グノムス:地底を守る妖怪)／プロムナード／ 2.古城／プロムナード／ 3.テュイルリーの庭(公園で遊ぶ子供たち)／ 4.ビドロ(牛車、家畜)／プロムナード／ 5.殻をつけたひなどりの踊り／ 6.サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ／プロムナード／ 7.リモージュの市場／ 8.カタコンバ(ローマにある信者墓地)～「死者の言葉をもって、死者と共に」／ 9.鶏の足の上に建つ小屋(ロシアの伝説に登場するバーバ・ヤガーの小屋)／ 10.キエフの大門

☑ 2016年日本公演スケジュール

7月10日(日)	東京	Bunkamuraオーチャードホール／主催:Bunkamura ★
7月12日(火)	東京	ヤマハホール／主催:ヤマハ株式会社
7月14日(木)	東京	東京オペラシティ コンサートホール／主催:ジャパン・アーツ
7月16日(土)	埼玉	彩の国さいたま芸術劇場／主催:公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

★アランプリ(エフ指揮)／NHK交響楽団との共演